

# 腎性貧血における L-カルニチン静注の ESA 減量による経済効果

## - 第 2 報

医療法人衆和会 長崎腎病院

○田島有佳 林田征俊 内山浩子 山中真樹子 丸山祐子 佐々木修 一ノ瀬  
浩 李嘉明 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

### 【目的】

昨年の本学会で維持血液透析患者における L-カルニチン静注投与による ESA 節減効果を報告したが、その後の経過について検討した。

### 【方法】

当院で維持透析中の患者のうち文書で同意が得られた CERA 投与中の 164 名に対し、L-カルニチンを毎透析後に 1000mg 静注投与し、Hb 値を 10-12g/dL に保ち、必要 ESA 量の変化等を検討する。

### 【結果】

L-カルニチン投与 12 か月の時点で、評価可能症例は 164 名中 104 名で、この期間中の総数の平均月間 ESA 投与量は有意に減少し、約 3 か月以降-20%前後でプラトーに達した。最終的に ESA 減量可能であった症例 (41 名、39.4%) のみでの節減率は 61.4%と高かったものの、減量可能例・不能例の投与前における患者背景は、糖尿病症例において減量困難である傾向にあったが有意差はなく、年齢・透析歴においても差はなかった。

### 【考察】

L-カルニチン静注投与は安全に施行可能であり、ESA 減量により医療経済的にも有用である。